

福祉新聞 2010 年 2 月 22 日 (月)

<知的障害者取り押さえ急死事件>

近く佐賀で刑事裁判

遺族ら「真相が知りたい」

2007 年 9 月に佐賀市内で知的障害のある安永健太さん (当時 25) が警察官 5 人に取り押さえられて急死した事件を巡り、真相を究明しようと「安永健太さんの死亡事件を考える集い」が 16 日に衆議院議員会館で開かれ、遺族、支援者、与野党の国会議員など 100 人近くが参加した。集い実行委員会の主催。



応援を求める安永さんの父・孝行さん (左) と弟・浩太さん

安永さんの遺族は、取り押さえられた警察官らを佐賀地検が起訴しなかったことに対して「納得がいかない。事件現場で何があったのか知りたい」として、2008 年 4 月、佐賀地裁に刑事裁判を開くよう求め付審判請求を行った。

付審判請求とは、警察官の暴行などを告訴・告発した人が、検察官による不起訴処分に対する不服がある場合に、裁判所に対して審判に付すよう求めること。

この請求が認められ、2009 年 3 月、付審判の開始が決定。春には刑事裁判が始まる見通しのため、今回の東京での集会開催には、事件への全国的な関心を集め、「真相解明を」、「障害への理解を」と世論の後押しを得る目的がある。

遺族らの説明によると、安永さんは、自転車に乗っている時に交差点でバイクにぶつかり転倒。警察官 2 人が歩道に移動させたが安永さんが暴れたため、計 5 人の警察官で後ろ手に手錠をかけて取り押さえた。この時に警察官が暴行を加えたという目撃証言もあったが、事実かどうかは明確になっていない。

佐賀県警は「適切に保護した」と説明、佐賀地検も「保護行為の範囲内」として不起訴にした経緯があり、事実関係の究明は今後の裁判にかかっている状況だ。

同日の集会では、佐賀から上京した安永さんの父親の孝行さんが「警察や検察への不信感でいっぱい。本当に悔しい」、弟の浩太さんが「死んだのに『保護した』と言えるのか」などと語り、応援を求めた。

また、代理人の河西龍太郎・弁護士は「警察が都合の悪いことを隠していると思う。壁は厚いが裁判で事実関係を明らかにし、警察の責任を認めさせ、遺族への補償をさせたい。知的障害者に対して『おい、こら』警察で良いのかも問題にしたい」などと話した。